九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Retrospective clinical evaluation of posterior monolithic zirconia restorations after 1 to 3.5 years of clinical service

郡家, 浩人

https://doi.org/10.15017/1931835

出版情報：九州大学, 2017, 博士（歯学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

（様式３）

氏　　名　：郡家　浩人

論 文 名　：Retrospective clinical evaluation of posterior monolithic zirconia restorations after 1 to 3.5 years of clinical service
（臼歯部におけるモノリシックジルコニアクラウンによる修復の１年から 3.5 年の臨床的評価）

区　　分　：甲

論　文　内　容　の　要　旨

本研究は、monolithic zirconia restoration(MZRs)の臨床的有用性について後ろ向きに評価し、成功に関連する要素を分析することを目的とした。2012年4月から2016年3月に小臼歯及び大臼歯にプロトコルに基づいて装着されたMZRのうち、１年以上のリコールに応じたもの、または失敗と定義された患者101名（男性30名、女性71名、年齢：45.1±10.1）に対するMZR148装置についてカプランマイヤー分析にて評価を行った(九州大学倫理審査委員会:28-240)。平均観察期間は25.0±9.9ヶ月であった。６装置が失敗と定義された。失敗の内訳は、３装置は歯髄症状にて除去、１装置は歯根破折、１装置はMZRの破損、１装置はブリッジの支台装置として用いるため除去された。3.5年のMZRsの累積生存率は91.5％であった（95％信頼区間82.1％-100％）。この短期間の後ろ向き研究のデータは、MZRがジルコニアによる修復のための一定の条件下において、臼歯部における治療方法の選択肢となる可能性を示している。また、本研究や過去の報告を通して、MZRの成功率を高めるための治療過程として①支台歯形成のデザイン、②MZRの咬合面の表面処理、③接着のための装置内面の表面処理を含むいくつかの臨床の手順が重要であることが考えられた。